

普及活動情勢報告（令和4年2月分）

高吾農業改良普及所

促成高糖度トマトの個別経営面談を実施しました。



2月7日から2月17日にかけて普及所、JA及び日高村役場が合同でJA高知県日高支所ハウス園芸部の新規就農者等8戸を対象に個別の中間経営面談を実施しました。

面談では前年6月に実施した経営面談で自身が決めた目標どおり経営ができているか、またJA出荷実績等を基に反省点や現状の課題について確認を行いました。

複数の農家からは特に労働力不足が課題という声が高く、「現状で人手が足りていない」、「今はなんとか回せているが、4月以降の人手が足りるか不安」等の意見がありました。

普及所はJAや役場と協力し、労働力確保対策を課題として促成高糖度トマトの安定生産を支援していきます。

（農）沖名営農組合総会が開催されました。



2月19日に（農）沖名営農組合総会が開催され、組合員のうち10名が出席しました。

総会では、令和3年度における主食用米と飼料米、ショウガ等の生産の取り組みやショウガ販売利益を将来の機械購入のため積立てることなどの報告がありました。令和4年度計画では、栽培面積の増加とモアーの購入、農業経営基盤強化準備金制度の活用への準備を進めることなどが決まりました。

普及所からは農作業安全についての啓発を行い、特にトラクター乗車時のシートベルト装着を呼びかけました。

普及所は今後も集落営農活動の発展を支援していきます。

サンショウの剪定指導を行いました。



サンショウは越知町の重要な基幹品目ですが、剪定については生産者ごとに方法や作業量が大きく異なります。

そこで今年度は剪定の実態調査を実施し、剪定作業による省力効果が最も高い作業時間や樹形を分析し、1月28日に実施された剪定講習会で結果を報告しました。講習会には食用及び薬用のサンショウを生産している農家が25名参加し、具体的な作業のイメージができたとの感想が聞かれました。

また、今回の講習会では幼木の実演会場が確保できたので、良い樹形にするための誘因方法を実演でき、生産者は枝の配置について熱心に質疑を行っていました。

普及所は今後もサンショウの産地維持を支援していきます。